



第44回例会報告(6月5日)

【出席報告】

・会員数 56名 ・出席数 31名 ・欠席数 25名
 ・当日出席率 68.89% ・前々回修正出席率 91.11%
 <欠席会員> 檜垣(巧)、飯沼、菅、川上、小島、越智(健)、尾越、大澤、白石、竹田、田中、戸梶、渡邊、渡邊
 [免除会員] 青野、原(真)、原田、松本、宮本、村上(敬)、野間、佐伯、坂本、高木、八木
 <5/22欠席補填> (5/20今治南)八石、原(竜)、檜垣(賢)、檜垣(俊)、冠、光藤、越智(務)、横井

- ◇会長報告・本日は、次年度のメインにより運営させていただきます。宜しくお願い致します。
 ・門田精二会員のお嬢様、裕子様が、5月31日滋賀県大津市にてご結婚されました。心より御祝い申し上げます。
 ・RI日本事務局より吉田会員、冠会員にポールハリスフェロー認証状とメダルが、またR米山記念奨学会より西信会員に米山功労者感謝状が届いておりますので贈呈致します。
 ・四国電力株式会社今治営業所 所長 平井達郎氏の入会手続きが、規定の段階を経て理事会で承認されました。異議のある方は7日以内に申し出てください。平井氏の推薦者は越智務会員と戸梶學会員、職業分類は大分類：電気。ガス。燃料、小分類：電気供給です。
- ◇幹事報告・本日19:00より根岸にて第13回定例理事会を開催。理事の皆様は宜しくお願い致します。
 ・第1回クラブ協議会開催のご案内：6月6日(金)18:00より国際ホテルローズの間にて、開催。19:30からは、地下1階龍宮にて懇親会を開催致します。次年度理事・委員長の皆様は宜しくお願い致します。また、第2回クラブ協議会は、東予RCより森川次期ガバナー補佐をお迎えし、7月10日(木)例会終了後開催予定となります。第1回クラブ協議会終了後、ご案内を申し上げます。
 ・その他回覧物：ボランティア情報、最終夜間例会ご案内、他。

外部卓話 滝口 伸一氏 「おもてなしの心」

◆重松宗孝次期幹事(卓話者紹介)：滝口伸一氏は、1996年より3年間、愛媛新聞今治支社長として今治RCに所属されていまして。現在は、伊予鉄観光開発(株)にお勤めで、四国八十八箇所情報紙ネットワークを作成され、JICA青年海外協力隊カウンセラー、今治明德短期大学客員教授もされています。

◆滝口伸一氏：「おもてなしの心」とは、お遍路さんと接することで培われた、困った人を見ると助けたいと思う、人の優しい本能と知恵が結びついたものです。次の外国人捕虜についての二つの逸話に、その精神は脈々と受け継がれています。

一つは、映画「バルトの楽園」で有名な坂東俘虜収容所(今の鳴門市ドイツ館)でのことでした。第一次大戦中、ドイツ人1,000人が、捕虜として収容されましたが、思いのほか快適な生活を送っていました。ドイツ語の新聞もあり、パン屋、床屋、写真屋さんもあり、池のボートにも乗れ、神社の縁日にも自由に行けました。所内にはオーケストラもあり、ベートーベンの第九歓喜の曲が日本で最初に演奏されたのもここでした。

もう一つは、日露戦争時の松山でのことでした。当時の県知事は、「捕虜は罪人ではない。祖国のために必死で戦い、不幸にして捕虜になったのだから、大事にしないとイケない。」と訓話しました。当時の松山市の人口は38,000人で、ロシア人捕虜6,000人を収容するために、お寺や公会堂に分散していました。塙のない収容所で、道後温泉も自由に行け、ロシア語の看板もありました。ロシアより家族を呼び寄せた人もあり、ほとんどの人はロシアに無事帰還しました。不幸にしてロシアに帰れなかった98人は、ロシア人墓地が作られ、現在も丁重に供養されています。このように、四国の人は「お接待の心」を持ち、捕虜に温かく接しました。今に生きる「おもてなしの心」です。

また、明德短大生は5日間歩き遍路をします。疲労困憊した夕刻時に、おばあさんがくれた一個のみかんと「がんばりなさい」という何気ない言葉が、たどえようがないほど嬉しかったとのこと。歩き遍路を経験して、食事の前の「いただきます」という言葉が自然に感謝の念を持ってでるようになったとのこと。

四国遍路道が世界遺産として、登録申請されていますが、本来は信仰の道であり、「おもてなしの心」というすばらしい精神が根付いていることを忘れないでほしいと思います。

<ゲスト>伊予鉄観光開発株式会社にて月刊誌「へんろ」制作、JICA青年海外協力隊カウンセラー、今治明德短期大学 客員教授 滝口伸一様、米山奨学生 パンタ ボジュ ラジュ様



次回例会(6月12日)

【小さな奉仕賞】

<会員誕生祝> 越智 務氏(6/16) <夫人誕生祝> 吉良 敏彦氏(6/16)

[献立 : 健寿司]